見いだす（自己理解）	深める（価値理解）　広げる（他者理解）　見つめる（人間理解）	気付く（自己・人間理解）	過程

学習活動（予想される児童の反応）

指導・援助（基本発問）

本時追求する価値を理解し、自己の生き方を振り返るための導入

【日常生活で見られるわがままな行動をT1（担任）とT2（支援員）とで演じ、それを児童が観察することで、本時考える価値の方向付けとなる導入】

○「今日から、ずーっと休み時間の遊びはドッジボールだーい！」

・えぇーー。鬼ごっこもやりたい。勝手に決めないでよ。
　他の遊びもしたいのに私の話も聞いてー。

「いいじゃん。ドッジボール大好きなんだもん！」

○「かぼちゃのつる」の話を始める。

人間理解・他者理解

○ぐんぐんのびているときのかぼちゃは、どんな気持ちかな。

・役割演技を通して、かぼちゃがのびのびと生活することの良さ、楽しさを実感させる。

◎「はち」「ちょう」「すいか」「いぬ」に注意されたことを、かぼちゃはどうして聞かなかったの。

・「はち」や「ちょう」「すいか」「いぬ」の注意を無視してまで、自分勝手な発言をし続けるかぼちゃの気持ちを、役割演技を通して表出させる。

人間理解・他者理解を深めるための役割演技

価値理解

○つるが切れたときのかぼちゃは、どんな気持ちかな。

・役割演技を通して、かぼちゃの困ったときの感情に浸らせる。前半の役割演技と対比させることで、かぼちゃの行為のわがままな部分に気付かせる。

【深めの発問】

◎かぼちゃもみんなもにこにこ（楽しく）生活するには、どうすればよかったのかな。

・「ちょっとぐらい」というわがままな気持ちではなく、「はち」たちの気持ちを考えることが、自分も他の仲間も楽しく生活できることにつながることに気付かせる。

・「自分だけが楽しい」よりも「みんな楽しい」という生活にするには、注意を無視して自分勝手なことばかりせず、仲間のアドバイスを聞くことが大切だということを、役割演技の中で表出させる。

価値理解のための役割演技と深めの発問

自己の生き方を振り返る＝自己理解

○「かぼちゃのつる」を読んで、みんなの気持ちや感想を教えてください。

・ロイロノートを活用し、自己の感情を整理させることで児童自身が気持ちを整理した状態で交流させる。

【児童の感想例】

・自分のことばかりを考え、まわりの友達のことを考えないと、わがままになってしまうことがわかりました。
・まわりの子のために、がまんすることも大切にしたいです。